

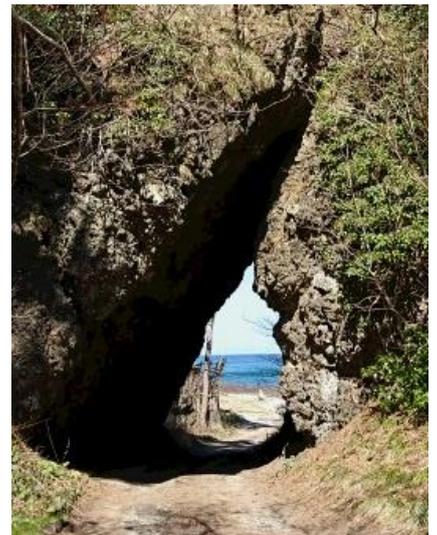
【日程】9:30 泊漁港駐車場集合（日程説明と諸準備：トイレあり）→各自の自動車で移動→10:00 徒歩で→弥次郎穴（とまりのトトロ）、滝の尻大滝、タタミ岩、奇岩、ぼっとあげ、白砂、大穴洞窟 遺跡を見学→12:30 現地解散

1 1,600 万年前の海底火山が造ったリアス式海岸を歩こう！

日本列島が、ユーラシア大陸から切り離され、現在の位置におさまった約1,600万年前、六ヶ所村は砂が堆積する海の底だった。そこに激しい海底火山噴火が起こり、火山の噴出物が堆積してできたのが、現在の泊リアス式海岸だ。当時の激しかった噴火活動の跡を見ることができる。

(1) 弥次郎穴(通称:とまりのトトロ)

今、SNS で話題になっている通称「とまりのトトロ」は、弥次郎穴といわれ、江戸時代の旅行家菅江真澄が、寛政 5 年(1793 年)の冬に、平安中期の後撰和歌集(村上天皇 951 年)に歌われている「おぶちの牧」を見るために、ここ泊海岸を牛の背に乗りながら旅をし、この穴のことを記している。真澄が「あの洞窟は何だ」と村人に尋ねると「弥次郎穴だ」と答えたそうだ。洞窟を通らず、海沿いの道を泊村へと歩みを進めている。弥次郎さんの土地にある洞窟だったのだろう。穴の形も見る人によって、いろいろな形に見える。なぜこのような穴が開いたのかを考えながら通り抜けてみよう。ふと振り返るとその答えがわかるかもしれない。



弥次郎穴

(2) 滝の尻大滝

小川を渡り、左奥に滝を見ることができる。滝の尻大滝だ。南北に連なる海成段丘を東西に横切るように流れる小川が、海食崖から海に向かって流れ落ちている。滝に近寄って、その「滝つぼ」をよく観察してみよう。どのようにして滝が形成されたのかがわかる。古い時代の滝つぼを見ることができ、昔、大きな大地の動きがあったことを実感できる。このトレッキングでは、段丘沿いに複数の滝を見ることができる。自分なりに滝に名前を付けて見るのも一興だ。



滝の尻大滝

(3) タタミ岩

海岸線に目を移すと、ベンチを横にしたような、畳の目のような岩が現れる。タタミ岩だ。横方向に縞模様のように見えるものは、溶岩が冷えるときにできる割れ目の柱状節理だ。普通は、縦に割れ目が走るのに、この泊海岸の溶岩の柱状節理は横向きで、ちょうど座り心地の良いベンチスタイルとなっている。県内でも珍しい光景が広がる。実は、先端部分に縦に走る板状節理も観察でき、いったいこの溶岩はどのようにして貫入してきたのか、わからなくなってしまう。じっくり観察してみよう。



タタミ岩

(4) ぼっとあげ (通称ボッチ:潮吹き穴)

海を右手にして、北に海岸線沿いを進むと、大きな屏風のような岩山が行く手をふさぐ。海底火山の噴出物からなる角礫凝灰岩層の山だ。突然、ドーンという音とともに、足元の岩場から潮が吹きだした。「ぼっとあげ」と呼ばれている潮吹き穴だ。時々、5mから7, 8mも吹き上げることがある。よく見ると穴は二つあり、のぞくと足元が空洞で寄せてくる波が見える。ガラガラと石がこすれるような音も聞こえる。江戸時代の旅行家菅江真澄もこのすさまじい勢いで潮を噴き上げる様子を絵にしている。



ぼっとあげ

(5) 白砂 (白砂の浜:菅江真澄の旅行記の記載名)

突然、岩場の中に白い砂浜が広がる白砂にでた。玉石が敷かれる歩きにくい岩場を来たので、ちょっとほっとする。ところでこの砂は、いったいどこからやってきたのだろうか？砂浜の北側の猿岩に来ると、砂岩層(鷹架層)の上に海底火山の堆積物でできた泊層の互層を見ることができる。角礫岩層の上に砂の層が重なり、また、凝灰角礫岩層が交互に重なっている。ちょうど下の層が砂岩層だ。波に削られて浜辺に砂が堆積し、白砂ができたことがわかる。現在は、温暖化により海水面が上昇し、砂が波で流されているのか、昔より白砂が少なく浜が狭くなっているようだ。



白砂



猿岩(泊層)

(6) 大穴洞窟遺跡 (古墳時代~平安時代)

トレッキング開始から約1km進むと、昆布干しの棚の下をくぐり、大きな岩の割れ目の奥に進むと洞窟がある。通称「牛穴」である。「昔、放牧していた牛の姿が見えなくなり、山向こうの横浜で見つけた」という言い伝えが残っている。ここは、遺跡指定されており、土師器の土器片や3体の人骨などが発掘されている。50歳代男性と10歳代の子ども、約7か月の幼児の骨が見つまっている。親子なのか、それにしても年齢が離れている。どのようなきさつで、ここに埋葬されたのだろうかとその死因について考えさせられる。突然、何かが頭の上を飛び去って行った。キクガシラコウモリである。運が良ければ、コウモリが飛び交っている様子や冬眠の様子に出くわすことがある。



洞窟入口



洞窟内



キクガシラコウモリ

(7) その他:奇岩や風景(花)



巨神兵のような奇岩



リアス式海岸



スカシユリとアサツキ 6月



コハマギク 10月

泊海岸で見られる植物

泊地区の海崖の下には、ガンコウランやミヤマビャクシンなどの高山植物が本州の平地で唯一自生し、学術的にも貴重な場所とされる。

1 **ガンコウラン**：北海道・中部地方以北の本州の、日照の良い高山の岩場や海岸近くに生育するツツジ科の常緑小低木。雌雄異株。花期は5-6月。果実は径6-10mmの黒い球形で食べられる。中山崎や物見崎灯台の南側斜面で見られる。

2 **ミヤマビャクシン**：高山の岩場に生える常緑の低木。高山植物。北海道から中部山岳地帯、屋久島まで分布している。盆栽としての人気が高い。乱獲の結果、現在では天然の物が少なくなった。盆栽界ではミヤマビャクシンを「真柏（シンパク）」と呼ぶ。中山崎や泊海岸の段丘崖の斜面で見られる。

3 **イワユリ（スカシユリ）**：5月下旬から6月中旬にかけて岩場には、岩ユリのオレンジ色の花が咲く。花びらの間に隙間があることからスカシユリという名前が付いている。花の後にできる実はさく果（熟すると下部が裂け、種子が散布される果実）である。太平洋岸に分布する個体群である。

4 **エゾネギ（チャイブ、セイヨウアサツキ）**：ネギ属の葉菜または根菜。アサツキよりも花被が長く、長さ15mm前後。花期は6月から8月。湿原の周辺など、湿った場所に生育する高山草。アサツキは、チャイブの変種である。カロテンを豊富に含む緑黄色野菜である。西洋料理では主に刻んで料理にふりかけて調味料として使われる。

5 **ノハナショウブ**：野花菖蒲は、アヤメ科アヤメ属の多年草。園芸種であるハナショウブの原種である。中国、朝鮮半島、日本に分布し、水辺や湿原、湿った草原に自生する。湿った放牧地などにも群生していることがあるが、有毒であるために牛馬に食べられないことによって繁茂しているものである。以前は倉内高瀬川沿いの湿地に群落がみられた。※見分け方：アヤメは、外側の花びらに網目模様がある。カキツバタは、外側の花びらに白色の筋がある。ハナショウブは、外側の花びらに黄色の筋がある。

6 **（エゾ）カワラナデシコ**：北海道、本州中部以北、ユーラシア中部以北に分布する多年草。山地の日当たりの良いところで自生種を見ることができる。花期は6-9月で、先が尾状になる苞が2対あり、その下部の1対は大きい。苞は3~4対で十字対生し、先は芒状にとがる。がく片の長さは2-3cmとなる。

7 そのほかの草花



シュロソウ

ツリガネニンジン

ハマヒルガオ

ハマエンドウ

コモチイワレンゲ

泊地区リアス式海岸線のジオサイトマップ



スカシユリ 5月~7月

(案内) 焼山大橋の下に駐車可。
①から⑥までは、約1kmのトレッキングコースです。



⑦物見崎灯台
(高山植物:ガンコウラン等)



⑤白砂(ここだけ砂浜出現)



⑥大穴洞窟遺跡(人骨出土・コウモリ観察)



Q1:これらの奇岩は何に見えるかな?



④ぼっとあげ(ぼっち:潮吹き穴)



①弥次郎穴(トトロの穴)

600m



③タタミ岩(玄武岩質安山岩:柱状節理)



②滝の尻大滝

焼山漁港



中山崎(砲台跡:枕状溶岩)

※国土地理院 HP より地図を一部作画引用